

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	〈テーマ1：地域の情報化の推進〉 ・高齢者のスマートフォン利用について、勉強しようとしても操作ができない・充電を忘れる等のケースが多数あり、個別サポートの窓口やスマホ教室の充実が必要である。固定電話からサポートしながら操作を教えた経験の紹介あり。 ・地域アプリの普及について、スマッピーカードと同様にガラケーからスマホへの切り替えタイミングに合わせた普及促進策として、アプリ登録でポイント500点付与等のインセンティブが有効との事例紹介あり。 ・高齢の家族にスマホを渡して使い方を教える際、孫・子ども世代との連携が最も効果的な場合も多い。 ・地域アプリを生活に定着させるため、アプリ内でポイントがたまる・植物や動物が育つ等のゲーミフィケーション要素の検討を提案した。 ・安否確認について、地域アプリのログイン情報で要支援者の生存確認ができる仕組みの導入の提案あり。 →来年度以降、要支援者向けの安否確認システムも含めたアプリ機能の拡充を検討中であるとの説明あり。 ・スマートフォンを使えない高齢者（充電すら忘れる段階の方）については、完璧を目指すのではなく、99%の人に届く施策と一部の割り切りを組み合わせることが現実的であると意見あり。 〈テーマ2：電算システム〉 ・DX推進について、具体的な進捗を管理するため短期的な目標（例：3年後・5年後にここまで）を計画に明記し、誰が見ても進捗が確認できる仕組みを作るべきである。 ・郷土資料のデジタル化（蔵書等）については、教育部会の図書館・博物館の施策として検討した方がよいとの意見あり。 ・商店街等の公衆Wi-Fi整備について、国の補助金を活用した拡充の可能性を計画に記載することの提案あり。ランニングコストと常駐者対策（長時間居座り等）も課題として確認した。 ・生成AIの活用について、役場では既にChatGPT/Gemini系の生成AIを全職員に開放済みであることを説明。まずは使ってもらうことを主眼に、少し古いモデルを無制限・低コストで利用できる環境を整備している。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	・個別避難計画のDX化については、防災部門の計画に入れる方が適切か検討する旨を確認した。